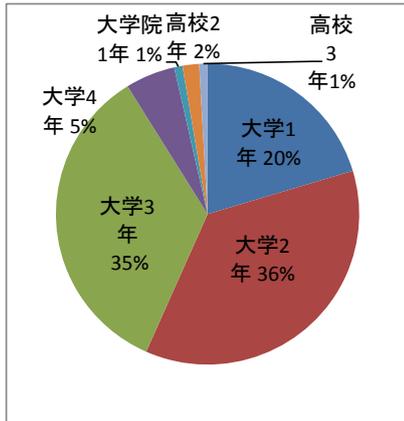
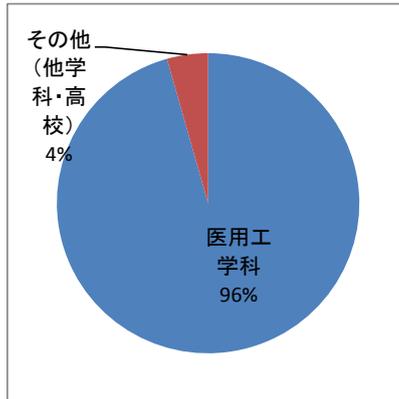


第6回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計結果【生徒・学生用】

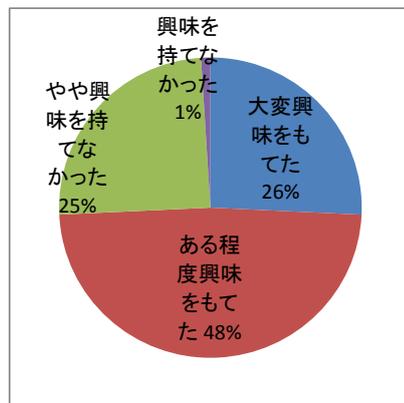
設問①学年は？



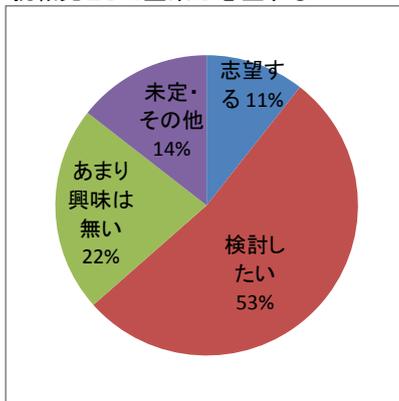
設問②所属は？



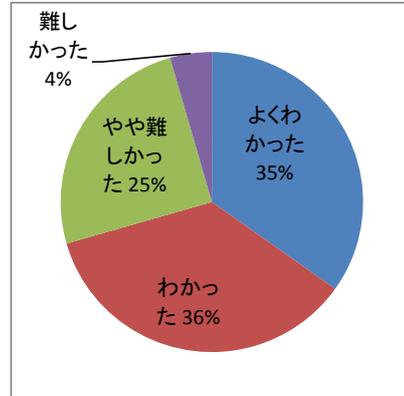
設問③企業による事業紹介について



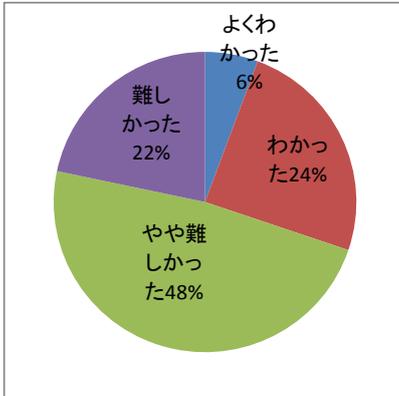
設問⑤【医用工学科の学生のみ回答】
就職先として企業は志望する？



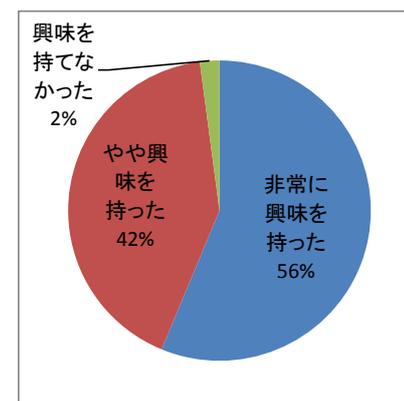
設問⑥百瀬先生の招待講演について



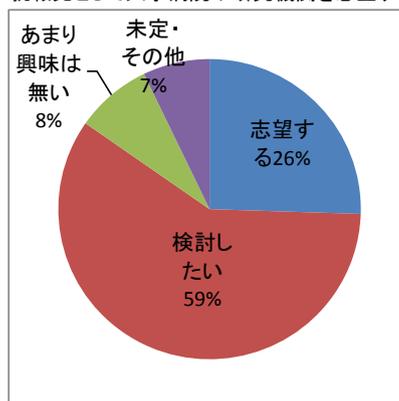
設問⑦金子先生の招待講演について



設問⑧臨床工学への興味について



設問⑨【医用工学科の学生のみ回答】
就職先として大学病院や研究機関を志望する？



第6回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

設問④興味を持てた企業名とその内容は？

企業名	事業・内容
旭化成メディカル	製品の開発
	この前のニプロの見学から、臨床での経験を活かして企業で働くことに興味があるため
	臨床経験が必要とされること
	臨床工学技士が活躍する事業、臨床教育について
ジェイ・エム・エス	ディスポーサブルの輸血ポンプが開発された理由
	透析機器関連、人工心肺関連
	ものづくり
	再生医療
	製造
	院内感染防止
	臨床工学技士は病院だけではなく企業でも活躍できること
	メンテナンス、開発、海外展開など
	新卒でも開発に携わることができる
	内容より事業の伝え方が分かりやすかったので、会社自体に興味を持った
	ムービーがすごく心に残った。前に聞いたことがあった
	院内感染防止
	会社の理念
企業の歴史や目指していることに興味を持った	
常にベストを尽くす医療機関に向けて	
泉工医科工業	人工心肺
	人工心肺関連
テルモ	埋込型の人工心臓の開発
	グローバルに展開している
	希望する部署へ行ける
	ちょっと開発した器具が世界中に広まって臨床現場で役立つ
	人工心肺
	体温計だけでなく、様々なものを作っていた。
	海外に多く拠点を持って事業展開しているところ
	人工透析・止血剤
埋込型補助人工心臓	

第6回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

設問④興味を持てた企業名とその内容は？

企業名	事業・内容
テルモ	DuraHeartを始めとする人工心臓の開発
	埋込型左心補助人工心臓の開発
	世界展開
	どの企業もよりよい医療機器・海外提供を目的としていたが、テルモはそれプラスα “ユニークさ”を求めていることに対して、面白いと思った
	企画・開発部、グローバルである
	プレフィルトシリンジ、ホスピタル事業
	埋込心臓「DuraHeart」
	グローバルな視点から医療が推進されている
東レ・メディカル	グローバルな企業活動
	大学院卒の人も研究しているというのを知った
	研究・開発
	メンテナンス、開発、海外展開など
	企画や開発、グローバルである
	トータルで透析システムを開発している
	グローバルな視点から医療が推進している
	人工透析に関するたくさんの機器をつくっていること
日機装	透析機器関連
	腹膜透析へも展開
	ポンプ事業
ニプロ	色々な部署でも実験・研究が行われている
	ちょっと開発した器具が世界中に広まって臨床現場で役立つ
	日本国内だけでなく、海外でも働けること
	透析機器関連、人工心肺関連
	世界的な透析などによる事業、カテーテル・人工心臓の製造
	再生医療
	研究所だけでなく、あらゆる部署で研究に関わることが出来ることに興味を持った
	やりたい人が率先してやっている
	人工透析・止血剤 研究所のみならず、販売拠点などでも開発できること

第6回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

設問④興味を持てた企業名とその内容は？

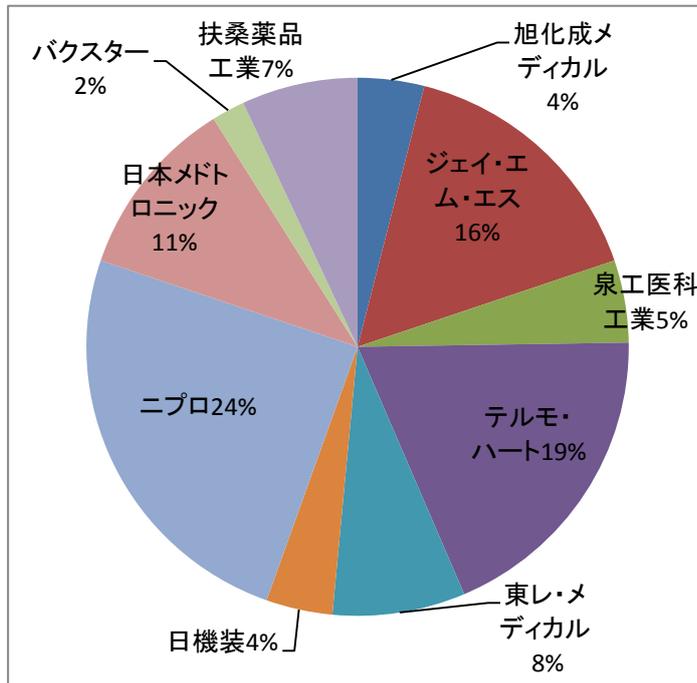
企業名	事業・内容
ニプロ	世界を変えたい！！
	全部署での開発が可能や、開発業務の話が聞けて内容も面白く感じた
	メンテナンス、開発、海外展開など
	再生医療；「開発」と聞くと機械的なイメージを持っていましたが、「細胞培養」という生物的な一面を見ることができました
	海外での事業活動について
	再生医療分野への発展
	全ての拠点で、希望すれば開発の仕事ができる
	全部署で開発をしているという点
	海外で活躍
	内容より事業の伝え方が分かりやすかったので、会社自体に興味を持った
	人工臓器
グローバルな視点から医療が推進されている	
日本メトロニック	病院と企業の違いについて
	世界1位の企業になった
	人工心肺
	臨床経験を経たからの企業就職
	ペースメーカー、各種バスキュラー
	メンテナンス、開発、海外展開など
	海外で活躍
	グローバルな視点から医療が推進されている
バクスター	透析製品事業
	グローバルな視点から医療が推進されている
扶桑薬品工業	透析液等のシェア率
扶桑薬品工業	透析液
	人工透析・止血剤
	メンテナンス、開発、海外展開など
	TDM-621のお話
	止血剤の開発

第6回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

設問④興味を持てた企業名とその内容は？

企業名	事業・内容
-----	-------

* 事業内容は前頁にて



第6回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

学年	設問⑥ 百瀬直樹先生の講演で興味を持てた内容は？
大学生	閉鎖式自己回収再輸血 発想の重要性 人工心肺 30年前と現在の透析装置の違い 閉鎖開放心肺 回路の簡素化。すべては患者のため PCPS 開放回路を閉鎖回路に、脱血流量の調整 開放回路について CLC、PCPS、OLC(開放回路) CLC(閉鎖式貯血レベル制御)について 人工心肺の貯血量の自動調整について 今までの機械のここがダメならこう変えてやればいいという柔軟性のある発想を使い様々な機器の改良をしていったこと ポンプ 「ものづくり」では患者はもちろん、それらを使う医者立場も考えなければならないこと アイデア・発想から生まれる患者のための医療機器 CLC CPB 開発のアイデア 閉鎖回路の人工心肺 輸血と出血を1つの回路とする点が未完成。多くの点でまだまだ開発が必要 現場を知らないとういってものが本当に必要かみえてこない アイデアをどのように生かしていくか 腹部動脈瘤について、PCPS CLCの仕組み 閉鎖回路VS開放回路 CLC、OLCの説明 CLC・CPBのような機器の安全性を高める開発、またそのリスク システムの開発 CLC、OLCについての説明 医療現場、企業のネガティブな面について 企業でなく臨床の場でも開発できること 患者のためのものづくり 「ないものは自分でつくる」の精神 今後の開発の方針 OLC等のオートメーション化について 閉鎖式貯血レベル制御(CLC)や車イスのフットなどの臨床現場ならではの発見、発想 人工心肺支援システム オタクと研究者の違い。患者のために開発すること 何十年後の臨床工学技士の役割 人工心肺のオート化 人工心肺支援システム 臨床工学技士は最低限の医療知識と豊富な工学知識が無いと無価値 「ものづくり」において、あらゆる視点で問題を視ること。そこからアイデアを生み出し、共同開発(人と助け合う) OLCやCLCのCPBシステムの開発についてなど 人工心肺支援システム OLC ものづくりの楽しさ、それを事業化する難しさ 先生のようなアイデア。また、それを実現する行動 「ものづくり」とは何か。発想する事の大切さ 何のために研究をするのか。操作の自動化 アイデアをもって、他の人を巻き込んだ開発 「ものづくり」について 臨床業務の中でも新しい装置を作ることができること。また、その有用性 スマートPCPS PCPS、CLC、連携すること

学年	設問⑥ 百瀬直樹先生の講演で興味を持てた内容は？
大学生	人工心肺の自動化
	「ものづくり」に対する将来の展望
	閉鎖回路のモニタ方法と、開放回路のモニタ方法の仕組み
	医師や工学分野専門の方との連携の大切さ
	CLC CPB、OLC CPB
	臨床におけるものづくりの考え方。有用なものが商品化されとは限らない
	医学も工学も協力者がいることで成り立つ
	ロボットが倒れる話
	今後の人工心肺の形や開放型以外の回路
	人工心肺の閉鎖回路がまだ主流になっていないこと
	臨床工学技士こそ「ものづくり」ができる。最終的に人のためになることをする
	よりクリエイティブな発想をもつこと。リスクは避けるのではなく、自ら背負う
	研究に対する姿勢や考えについて
	閉鎖式貯血レベル制御 (CLC)
	CLCやOLCといった貯血槽レベル制御
	技士によるものづくり
	閉鎖式的人工心肺について
	現場に無いものは自分で作り出すという点
	OLCについて ものづくりの大切さ
	閉鎖式貯血レベル制御について、ものづくりの考え方
	透析の機械を使いやすくするために行ったこと
ものづくりに対する発想とそれを実現する方法	
今後の人工心肺装置の発展について	
一人でやるのではなく、いろんな人ともものを作ること	
臨床での、新しくほしいと思ったことを創り出す考え方	
高校生	ちょっとした人のためと考えたひらめきが大きいことに繋がること
	先生の発想と、それが実用化されるまでの過程

第6回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

学年	設問⑦ 金子岩和先生の講演で興味を持てた内容は？
大学生	血液透析
	HDD 患者の高齢化
	透析医療に従事する医師の不足、ステートメント、kt/v キール型ダイアライザ
	装着型人工腎臓
	透析液を飲む透析
	一回あたりの透析時間と余命が関係していること
	透析量
	人工腎臓の成り立ち
	ダイアライザの進歩・改良・開発
	ダイアライザなど
	透析患者数が増加している
	人工腎臓に関して、透析の発展
	専門認定制度の有無
	慢性透析療法の特徴
	透析療法の発展と進歩
	在宅透析療法、臨床工学技士の認定士について
	透析装置の変遷
	透析装置の変遷
	病院内での臨床工学技士の主な仕事内容
	携帯型人工透析
	透析液を飲む
	在宅透析療法
	腹膜透析
	透析患者は高齢化している
	初期の血液浄化装置の仕組み
	旧来から今に至る透析装置の変化
	透析器の変遷。kt/vについて
	初期のダイアライザ
	認定制度について
	慢性透析療法の現状。臨床工学技士生涯教育制度
	透析装置の変化
	透析の歴史や現状
	医療機器産業ビジョン
	今後の展望として日本発の医療機器の開発
	透析療法の発展と進歩
	ダイアライザの歴史。血液浄化装置の歴史
	キール型ダイアライザの構造
	血液浄化について
	様々な機器、その仕組みについて
	ダイアライザの構造の変化
ダイアライザの変遷	
透析療法が自動化に至るまでの経緯	
透析器など発展の歴史	
血液浄化の発展	

第4回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

学年	設問⑩ 臨床工学技士の業務について、この講演会で初めて知ったことは何ですか？
大学生	<p>人工心肺の運用が減少傾向にあること。</p> <p>ほとんどが知らない事ばかりで難しかったけど、為になったと思う。</p> <p>医療機器の操作・点検・開発の他にも、製品説明などの説明や教育する業務が多いこと。</p> <p>臨床工学技士が病院内でのものづくりの担当でもあること。今回の百瀬先生の講演で、患者の声を聞きながら技士として仕事をする理想像を見ることができた。</p> <p>企業で営業を担当することがあるということ。臨床経験が企業でとても役立つということ。</p> <p>これから先、医用機器がどんどん進化してって、臨床工学技士の将来(30, 40年後)に関して不安な部分もあったが、むしろ、医用機器が進歩するからこそ必要とされる部分も増えていくのだと思った。</p> <p>臨床で現在ある機器を扱えるようになるだけでなく、臨床経験で感じたことを活かしてさらに扱いやすく、患者に侵襲の少ない機器を開発していくことも業務であると知った。</p> <p>透析に関する機器というのは直接患者さんに使うもののみというイメージがあったので、透析に使用される粉などを作るための機械があること。</p> <p>人工心肺のシステムがなくなってしまうかもしれないこと。また、それに代わる次世代の人工心肺の開発が進められているということ。</p> <p>研究機関や企業だけでなく、最前線の現場である手術室の真横に技士の研究する場所があること。</p> <p>医療機器や医薬品などの他にも、臨床の教育を目的とした企業があること。</p> <p>これから先、臨床工学技士には医学・生物学はもちろんだが、特に工学分野における知識、そしてそれを生かした開発のアイデアが必要とされる人材を求めている。</p> <p>循環器領域の発達が臨床工学技士にかかっている。多くの可能性を秘めていることがわかった。</p> <p>工学や英語をもっと勉強しなければいけないと知った。</p> <p>業務というよりは、開発や研究にも取り組んでいる人もいるという事はすごいと思いました。</p> <p>病院での仕事だけではなく、企業での開発などの業務に力を入れている人達も多くいることが知れた。</p> <p>臨床現場での臨床工学技士の業務、また、医療機器の開発や営業などの業務が幅広く大変重宝されているという事が分かった。</p> <p>企業における臨床工学技士の業務においては、営業や機器の開発・企画だけでなく、講演会などの指導する場面があること。</p> <p>大学病院や研究機関で良いものをつくっても、なかなか企業で使ってくれない。</p> <p>高圧酸素治療</p> <p>30年前からの進歩はすごいと思ったとともに、これからの進歩に自分がついていけるかと思うと不安にも思い、また頑張ろうという気になった。</p> <p>他の職で町工場に依頼して作ってもらうというのは聞いたことはあったが、医療領域でもこのようなことが行われているとは知らなかった。</p> <p>業務ではなく、工学分野の必要性を深く理解した。他に興味のあることは、臨床工学技士の認定制度です。</p> <p>機器の扱いの簡略化が進んでも、MEとしても仕事は充分にあるということ。</p> <p>生物分野は医師と話せるくらいいいが、工学はしっかりやっておく。</p> <p>作業の簡易化が進められ、「誰でもできる仕事」になったとき、臨床工学技士に求められるのは、「機器を動かされるか」ではなく、「いかに安全に動かされるか」であるということ。</p> <p>臨床工学技士の携われる領域が年々増えており、企業も臨床工学技士を必要としている場面が多いこと。</p> <p>企業が意外とMEを欲しているということ。</p> <p>難しいものを開発する必要はない。必要とされていることを自分の力で組み立てて改良すればよい。</p> <p>多くの企業が医療機器を製作していると知っていたが、既知の企業もあれば未知の企業もあり、その点は初めて知った。</p> <p>百瀬先生の講演で、病院で臨床現場にいるからこそ分かるアイデアや製作。もの見方にとらわれず、なぜその方法がとられているかを考えること。</p> <p>企業に就職してもやりがいのある仕事がたくさんあること。海外でも仕事ができること。</p>

学年	設問⑩ 臨床工学技士の業務について、この講演会で初めて知ったことは何ですか？
大学生	<p>将来新しい機器や簡単な機器ができた場合、臨床工学技士の役割が減っていくのではないかと思っていたが、逆にこれらの機械のスペシャリストになって臨床の場で役に立っていないといけないということ。</p> <p>これから、より臨床工学技士が必要とされる。</p> <p>業務がどんどん広がっていったということ。</p> <p>アイデアを実現するにはいろんな方面の専門家と協力し合うことによってはじめて成り立つ。</p> <p>臨床工学技士の資格を取った後において、どのように心に留めるべきかが分かった。</p> <p>臨床工学技士とものづくりの関わり</p> <p>昔は、今と考えられないようなぐらいシンプルだが、精度が悪い機器が多かったということ。百瀬先生のように「ものづくり」をしている技士さんも多いということ。</p> <p>人工心臓の操作の自動化が出来たようになったとしても、臨床工学技士の仕事はなくなるな</p> <p>技士でもアイデアで開発は出来るが、自分では作れない。臨床経験を生かす。</p> <p>業務とは異なりますが、臨床の業務内においても自らのアイデアを生かした装置を作製し、実際に使用できることを知りました。</p> <p>臨床工学技士の今後の業務変化と展望について。グローバルな活躍。</p> <p>ものづくりに関して、他の分野の人たちとの協力が重要であること。</p> <p>企業と連携して様々な機器の作製。</p> <p>企業においても臨床工学技士が多くの分野で活躍していることを知りました。</p> <p>臨床工学技士として、病院等での業務だけではなく、開発者としての展望があるということです。私自身将来は開発職に就きたいと考えています。しっかりと、技術や工学の知識を深め、将来のあり方に備えたいと考えるようにしていきます。</p> <p>たくさんの認定士があること。</p> <p>企業における医療機器の営業。教育機関での教育・指導。</p> <p>臨床工学技士の細かい歴史について多く知ったと思う。</p> <p>企業における研究やグローバルな展開。</p> <p>これから先、工学分野の知識がより必要になっていくこと。</p> <p>臨床工学技士という医学の知識、工学の知識をフルに活かして、ものづくりの世界も開拓していくことができるということ。</p> <p>医療機器が自動化されていっても、MEの仕事はなくなるならない。むしろ、もっと専門性が高くなるということ。</p> <p>通常の業務をするだけでなく、あらゆるものを「もっと良くしたい」という考えを常に持って研究に携わっていく重要性を感じました。</p> <p>自分が思っていたよりも研究分野での活躍が多かったです。常に研究をする姿勢をもつ百瀬先生の姿にとっても感銘を受けました。</p> <p>透析装置の歴史。</p> <p>機械の操作が簡略化していくほど、技士の工学に対する理解が求められる。</p> <p>臨床工学技士本人がものづくりに関わるということ。</p> <p>医療機器に関しては、医師の指示を受けずに独自に決められること。</p> <p>アイデアがいくら良くても商品化されない。</p> <p>臨床の場から機器開発についても携われること。</p> <p>人工心臓装置の発展について60年前から基本的な構造は変わっていないことにも驚いたが、人工心臓装置の発展に力を注がれているにも驚きました。</p> <p>人工心臓の装置が60年間ほとんど変わっていないこと。</p>
高校生	<p>良い仕事ほど責任は重いが、すべては患者のためであること。魅力のある循環器領域の仕事をつくるのが臨床工学技士であるということ。</p> <p>臨床工学技士の医療機器作りへの貢献度</p>

第4回ねごろ医用実学研究会講演会 アンケート集計【生徒・学生用】

学年	設問① その他、ご意見やご感想、今後聞きたいテーマなどをお聞かせください。
大学生	<p>初めて講演会に参加したが、非常に興味深い内容でおもしろかったです。</p> <p>企業によって様々な特徴・色があり、とても興味を持って話を聞いた。</p> <p>現段階の学力では、話をさせて頂いている内容が難しすぎて何を言っているのかが分からないので、もう少し勉強をした後、今回のような講演会を開いていただきたい。</p> <p>就職に関する情報が気になる。(病院や企業など)</p> <p>血液浄化の話が多かったので、体内循環の話をもっと聞きたかった。また、百瀬先生のお話がとても興味深く分かりやすかったのでまた聞きたい。</p> <p>道具の簡素化に向けて、現場の臨床工学技士の反応はどのようなものなのか。日本は海外と比べチーム医療への完全移行が遅いように感じたが、今後の臨床工学技士の立ち位置はどうなるのか。</p> <p>興味深い話ばかりでとても充実した講演会であった。今後もこのような会があれば参加していきたい。</p> <p>今後は、将来医療がどのように変わっていくかなどを聞きたいです。</p> <p>説明が明瞭で非常に分かりやすかったです。また次回も参加して、医療に関する知識などを増やし、将来医療現場で活躍できるように頑張りたいです。</p> <p>大学に入ったのももとより企業を志望していたので、毎年このような場を設けていただいて、古菌先生をはじめ色々な方々に感謝しております。今回のお話も非常に為になるものばかりでした。</p> <p>どうしたらより良いものができるのかを考えながらものを作ることは大事なことだと思った。企業の思い・気持ちよりは、こんな研究をしている、開発をしているといったようなそこに行くと何ができるのか、という話を聞きたかった。</p> <p>基礎知識が定着していないので、難しいなと思うことがあった。きっちりと知識を身につけたいと思った。</p> <p>簡略化による仕事の減少、地位の低下がないのであれば、研究・開発に進みたいと考えます。そこでMEとして機器開発にあたっている方々の話を聴いてみたいと思います。</p> <p>慢性透析療法は、医師不足や偏った腎不全医療が原因で、治療が難しくなっていることがわかった。</p> <p>企業の方へ向けて。 経験ある人材を求めていると仰っていましたが、経験の有無を年単位で決めることができないとお答えでした。経験の有無の判断材料としましては、どういった点を見ておられるのでしょうか。</p> <p>現場で働いている2人の話を聞くことが良かった。</p> <p>最新機器に対応するために、どのようなことを学べば良いか知りたい。</p> <p>今回、現在臨床で働いておられるお二方にお話をお聞きすることができたのでよかったです。</p> <p>海外での臨床工学技士の立場・役割</p> <p>難しいお話もあったのですが、これからもっと将来に向けて頑張っていけないことがわかりました。</p> <p>おもしろかったです。</p> <p>企業に入り開発するためには何を重点的に勉強しないといけないのか。</p> <p>百瀬先生の「ものづくり」、人に頼るところ、その発想にすごく感動した。人を助ける気持ちがよく表されていた。</p> <p>臨床工学技士が臨床で重要な分野が工学であることを確認できた。</p> <p>百瀬先生の講演を聞いて、発想を柔軟にし、当たり前のようなことも考える必要があると感じた。</p> <p>臨床と企業のギャップをうめるべく医療と工学の知識を兼ね備えた人材が必要であると痛感した。その中で、現場の意見を大切にしなければ、よりよい医療を提供できないと感じた。</p> <p>現状や今後どのようにMEが役立つべきか等を教えてほしいと思います。また、MEは今後どのような業務を行っていくべきかを教えてほしいです。</p> <p>臨床工学技士の資格をもつ人間が、果たして、研究・開発をすることができるか。工学知識が足りなさすぎると思う。工学を専門にしている人間についていけない。</p> <p>百瀬先生のものづくりのテーマについて、さらに詳しく聞きたいと思いました。</p> <p>今後の医療機器の発展やそれに対する臨床工学技士の展望について聞きたいと思います。</p>

学年	設問⑪ その他、ご意見やご感想、今後聞きたいテーマなどをお聞かせください。
大学生	<p>臨床工学技士として臨床現場のみで働くのではなく、企業や研究機関での開発や研究の道も広がっていることを詳しく知ることが出来てよかったです。</p> <p>臨床工学技士の今後の展望や心構えなど、これから実習に臨む者として大切なことを聞くことが出来ました。</p> <p>とても興味深く参加することができました。特に、企業による事業紹介が良かったです。</p> <p>臨床工学技士と再生医療との関わり</p> <p>臨床工学技士として多く学ぶべきことがあったと思います。企業が必要とする臨床工学技士とは主にどんな人材であるか知りたくなりました。</p> <p>生命維持管理装置における責任が医師にある中で、問題発生したときの責任は臨床工学技士がとらないといけないのか。</p> <p>今後も様々な医療機器メーカーや商社の方などのお話を聞きたいと思いました。また、これからの臨床工学技士の未来についてもお話を聞きたいと思います。</p> <p>発展途上国への医療の介入、現状、関心、今後の展望</p> <p>たくさんの方々のお話を聞き、それぞれの仕事に対する姿勢・考えなども知ることによって、今後就職活動をするにあたって大変参考になりました。</p> <p>就職進路を決める時期に、このような講演会がありとても参考になりました。企業も、インターネットで見るとよりも多くの情報が得られ、とても良い機会であったと思います。</p> <p>体外循環内における患者指標について、症例等によってSVRなどの値に変化があるのかなど、また患者の体表面積の違いによる指標の違いなど。</p> <p>「ものづくり」の具体的な活動内容、現場について</p> <p>医療機器の質や機能の向上に遅れをとらないように、自分たちも医療の知識・工学の知識を深めないといけないと思った。</p> <p>臨床工学技士が大学院で学ぶべきことなど教育関係。</p> <p>新たな医療機器の開発について</p> <p>臨床工学技士で製品開発を行っている方の話をもっと聞きたい。就職先として、大学病院を志望しますが、ある程度知識をつけてから行きたい。</p> <p>臨床工学の歴史やこれからの展望、20年先はいったいどうなっているかなどを聞けて良かったです。</p> <p>企業による事業紹介によって、就職活動に非常に参考になった。</p>
高校生	<p>講演会に参加して、今まで知らなかったことが知れたり、臨床工学技士という仕事が前より具体的にわかるようになったので、参加して良かった。</p> <p>まだまだ分からないことが多かったので、大学で勉強してから聞きたい話が多かったです。</p>

設問⑪

臨床工学技士において大切なのは工学であるという事。臨床工学技士のアイデンティティは工学であり、そこをしっかり学ぶことで医用工学としての職域を広げることになるという事。

行政の分野へも進めることが分かった。企業へ就職した際の詳しい話も聞け
企業での臨床工学技士の仕事の種類。

PMDAの存在と、そこでのMEの役割など。企業や研究開発でのMEの存在・役割など。(意見の交換やニーズの見極め方など)

臨床工学技士の業務は、企業の中にもさまざまな部署があり、その中で臨床工学技士の活躍の場が幅広くあることを知った。また、医療機器審査官等の行政の場にも仕事があることを知った。

臨床工学技士の資格を持つ企業で働いている方が、思ったより少数だと思ったこと。

研究職にいく人が少ないのは、教育があくまで病院で働くことを想定しているから・・・というようなこと。

ICUに当直で点数が出る。

企業に勤められている臨床工学技士の方々が、思ったより開発を直接行っておらず、講演などを通じて開発・研究につなげていると知った。

行政にも臨床工学技士がすくなくからず関わるかもしれないという事。

臨床工学技士の企業において、どのように役立っているかなど。

病院だけでなく、企業やその他にも広く業務があることを知りました。

行政の医療機器の審査などやデバイスラグが起きる原因を知ることができ

臨床工学技士の業務は意外と幅広いことを知って、選択肢が広がってよかつ

PMDAという組織があること自体知らなかった。機器の操作や保守点検以外にも講義等の仕事もあるという事を初めて知った。

臨床工学技士の活躍の場は、医療機関などの病院だけだと思っていたが、様々な多様性があることを知った。特に、PMDAという言葉を知った。

現在の透析技術はすごくよくなっている事を改めて知ったが、やはり本物の腎臓に比べるとまだまだという事がわかった。

企業には臨床工学技士は少ないという事。

臨床工学技士の任される業務が私の知っていたのより多かつたことです。

臨床工学技士は、企業か病院だけで就職を考えていたが、行政の就職もあることを知りました。

臨床工学技士は、病院と企業だけで活躍するものと思っていたのですが、行政などでも活躍できるという事を初めて知った。いろんな場所・場面で活躍できるものだなと思った。

企業における重要性。PMDAにおける審査について。

臨床工学技士が作った後の医療機器を審査しているという事は知らなかつたです。

病院ではなく、企業での仕事について初めてよく知った。

PMDAという仕事があること。工学の重要性。

企業では、臨床工学技士の工学知識では役に立たない事を、学生である今、知ることができたので、学生の中に学ぶ事のできる工学をしっかり学んでいきたいと思いました。

臨床工学技士が企業でも十分活躍できるという事です。また、普通の臨床工学技士ではなく、何か得意なことを持つことです。

病院以外での詳しい業務内容について。

企業での医療機器の保守・点検について。

臨床工学技士の職域が行政にも広がっていて、役人の立場から医療機器の承認もあることを知りました。

企業で臨床工学技士の働いている人数が少なくて驚きました。
人工腎臓の必要性や、それを開発することの難しさを知りました。
思っていたよりも臨床工学技士を必要としている場や活躍できる場は多いと感じた。なぜ、臨床工学技士が役に立てるのかという根本的なところを知れ
企業での業務で営業はあると考えていたが、研修講師も行うのが驚きまし
幅広い就職先があり、それぞれ異なった世界で働いているように見えるが、医療・工学の分野を基礎としている部分は変わらない。自分が望む就職先を見つけなければならないと思った。
新しい機械が出来る毎に機械の説明会や国の承認など、企業はいろいろと忙しいことを初めて知りました。
臨床工学技士にとって、企業や行政の部門が病院と同等もしくはそれ以上の業務を持っている事を意外に思った。
自分に問題提議すること、工学的知識を持つことを改めて勉強した。
日本アフェシス学会の研修担当で、人材育成もできるということ。
人工腎臓、人工系球体は、現代の材料では作れないこと。
医用機器開発におけるの評価。
臨床工学技士の業務の範囲の広さ、医学と工学の両方の知識を有する臨床工学技士のニーズの多さがわかりました。
現場経験に基づく医療機器の開発や改良です。医療機器のみの知識だけでは、ユーザー人数やニーズを知ることができないので、やはり現場での経験は大切だなと考えました。
行政という就職先を考えることができること。
武内先生のように、審査専門員としても活躍できることを知った。
臨床工学技士は臨床や工学だけではなく、審査の部門でも活躍できるという臨床工学技士は、ただ病院にいくだけではないと考えました。
人工腎臓の現状とナビゲーションシステムなど。
企業に就職する人もいるということ。
新しい技術。企業の臨床工学技士の少なさ。
工学の重要性。
PMDAへの具体的なイメージがわくようになった。
透析において人の手がいらず、自動化が進んでいること。
常に患者の事を考えて行動する必要があるということ。当たり前のことですが、研究したりしていると忘れてしまいがちなのかもしれません。
医学よりも工学をより学習することが重要であること。
企業の経理部や人事部系にも臨床工学技士がいた方がよりよいということ。
企業においては、開発や販売促進くらいしか活躍の場がないと思っていたので、まだ、発展途上の職業であるというのは知っていたが思っている以上で
企業において、臨床工学技士の役割(活躍する場)が、開発などの分野にのみだと思っていたが、企業においてもすべての分野で活躍できるということ。
医療の知識が広い範囲で必要であるということ。
企業における有資格者の役割。今後の活躍の場も多く、期待が持てるということが具体的に分かった。
海外製の医療機器について初めて考えた。元々、海外で働きたいとも思っていたので、海外で働いている人がいると聞いてうれしかった。
企業での業務は機器開発だけでなく、他にも様々な業務があることがわかりました。そして、どの業務においても臨床工学技士として幅広い知識を持っておくことの重要性を改めて知りました。

研究・開発部門にはなかなか配属されないということです。実際に、就職活動をしている同学科生が、希望している開発部門ではなく、病院で説明したり修理したりする部門になりそうとの事を聞いていたので、背景を知れたのはとても大きかったです。

海外と国内の医療機器審査の基準。

臨床工学技士としてのこれからの道はたくさんあるんだということを知りました。臨床工学技士の仕事として、医療機器審査という仕事については初めて聞くことができたのでよかったですと思います。

ほとんどは知っている事であったが、「企業」と一言にまとめられているものの詳しい業務内容を知った。また、行政機関については新しく知ることが多かった。

行政機関でも働けるということ。

医療機関で働くより先に工学を修めることも重要なことの1つであるということが分かった。

企業と行政と臨床がひとつながりになっていること。企業で臨床工学技士がどれほど必要とされてるかということ。

様々な分野で働くことができるチャンスがあること。

企業における臨床工学技士。

透析に代わる新しい治療機器開発が必要であること。治療機器の原理をしっかり理解するために、工学を勉強する必要があること。

就職先に行政があることは知らなかった。

臨床工学技士が病院や企業だけではなく行政(医療機器審査等)でも必要とされていること。

透析患者がこれから年々増加して、臨床工学技士の働く場面が増えると考えていたが、大学を卒業して約40年も働くにあたって、人口の減少とともに減っていくかもしれないということを知りました。

臨床工学技士が透析関係以外の機器の開発・研究を行うことができること。

病院だけではなく企業や行政機関へ行ける。

生体腎と人工透析での異物の濾過率が、人工透析の方がかなり低い事。

医療機器の審査という業務は初めて知りました。

企業で工学技士はそんなに働いていない。

透析に関して日本は非常に進んでいることを初めて知りました。工学の基礎を勉強する。臨床は、企業に入ってからでも学ぶ事はできる。

企業の場合、どの部門でも仕事ができることを知りました。

企業で働く臨床工学技士は開発部門が大半だと思っていましたが、全く関係のない経理などの部門でも必要とされつつあることに驚きました。臨床工学の知識の活かし方は様々であることがわかりました。企業で活躍すると、患者さんとの距離が遠くなるような気がしてさみしく思ったりもします。

企業での業務。企業にある多数の部門で働いていること。

I-HDFの研究に関して。生体細胞を組み合わせたダイアライザに関して。

未来の眼から見た医療機器と、臨床工学技士が活躍するようになるまでの背景と裏の努力、また、医療機器の開発研究だけでなく、その審査においてまで知ることができました。

企業内の技術開発の方では、主体的に参加するよりも、医療機関等で得た意見や改善点等を正しく伝えることを行う重要なポジションでもあること。

PMDAや企業の特徴について知ることができた。

海外からの研修者に対しても講習を行うこと。PMDAの審査を行う機器の分類と基準。

PMDAでリスクに応じて分類・規制されていること(医療機器)。様々なハプニングや排液などから患者さんの状態を知れるようにモニタリングできること。

臨床工学技士は工学の知識が不安定であることで、企業の就職で他の工学部の人たちに劣っていると知った。

企業では、販売・営業での業務が多く、研究・開発での業務が少ないことを知らなかった。

開発系の業務よりも、営業の業務の方が多く、企業で開発の仕事に就くことがあまりないこと。
限界が存在しないことがわかった。
日本と外国では翻訳による医療機器のタイムラグが生じる。
工学の大切さをさらに認識した。
企業内で研究・開発の分野にだけでなく、様々な部署に所属していること。自分が知る企業内にも臨床工学技士がいること。
いろんな分野で働いていることがわかった。
多くの就職先があること。臨床工学の分野では、工学を重要視した方が良いように感じた。
臨床工学技士の企業での立場。
企業に臨床工学技士が少ない。透析はいずれなくなる。
PMDAの存在。
PMDAについて。
企業で働いている臨床工学技士が、想像していたよりも非常に少なかったこと。企業で働く臨床工学技士の仕事内容、また、医療機器を審査する職があるということとその内容。
行政にMEの需要があること。企業におけるMEの業務。
行政にもMEの需要があることを初めて知りました。
臨床工学技士が医療機器審査等の行政に関わることもあるのだということを知り初めて知りました。
幅広さ。
透析患者の増加する割合が少なくなってきたこと。
臨床工学技士は病院のみでなく、企業や行政などで幅広く活動ができることを知った。企業の中にもいろいろと分野が分かれていて、それによって内容が異なることも知った。
病院・企業以外にも就職先として行政があるということ。
未来の機器やダイライザのことも開発している。
PMDAでは、臨床工学技士が医療機器審査に関わっているということを知り初めて知りました。
臨床工学技士の企業における立ち位置。人工透析の未来の状態。
医療機器審査等のような行政の仕事。
業務としては、行政(医療機器審査等)のような医療機器の審査があること。
行政での臨床工学技士の役割。
医療機器開発に携わる人の中に、有資格者がとても少ないということを知り、とても驚いた。
PMDAという行政への道があることを知った。
工学の基礎が重要となっていくという話が興味深かった。
企業での臨床工学技士の割合が現在低く、本当にMEの企業の参加がこれから盛んになっていくのだと感じた。
想像していた以上の仕事の種類があること。視点の違いによる臨床工学技士の立場。
臨床工学技士の企業において求められる点や、なぜ企業がCEを必要としないのか。また、今後どのような開発が求められるか。
企業に就職した人、臨床工学技士全員が開発できる訳ではないこと。
企業に入って何でもできる。

工学分野の重要性。

病院や医療機器メーカー以外にも、MEの知識があることで有利になる点が多々あるという事。特に、行政という観点で将来の道考えた事は無かったので、視野を広げ可能性を広げていきたい。